（十二日夕刊）
磐城新聞
休刊 大祭日ノ翌日 第一第三日曜
定價 一部二錢 一ヶ月六十錢 郵税十五錢
廣告料 壹行六十錢 指定廿錢増
發行兼編輯印刷人 國府田 福島縣平町田町十六番地
發行所 磐城新聞社

虫すだく初秋の夜
亡き三氏を偲ぶ
明十三日會の集りで
三校長追悼座談會

十三日會ではこの程幹事會の協議に基き明十三日午後七時から常磐銀行支店樓上に開かるゝ例會を故桐谷文平、滑川一郎、櫻井賢文三氏の追悼座談會とする事にしたが當夜は最寄有志多數の出席と故人を偲ぶ物品の持參追悼談の發表を歡迎すると、因に次は記者がいはらき平支局在勤當時毎日の紙上に速載した「霧笛信號」欄に於て書いた故人關係の記事であるが亡き人を偲ぶ一材料として敢て摘録する事にした、尚この外滑川校長が例の「掻毬あたまを打ち振り乍ら」と云た樣な筆法で描寫した茨城縣人同志の痛快な懇親會に關する記述なども多數あつたが今は散逸して手許にないのを憾みとする。

◇

酒田へ行つた臼井監督判事の平町に在勤當時はおなじ裁判所に宇留野小野村の兩判事、滑川磐中校長坪の松刑務所長、新驛長、樫村警察、岡部稅務兩署長、共濟病院長の助川博士と云つた具合に各方面のあたま株ゞ茨城縣人が非常に多く隣縣平町の一角巍然てし茨城王國を建設し輪番幹事の肝煎で春秋二期に「同好會」なる親睦交歡を催しては盛りにメートルを上げたものだ

◇

その後臼井判事は酒と女の酒田へ滑川校長は一蓬萊はた臺灣出張の歸途病を得て不幸鬼籍に入り茨城王國些かゆるぎ出たと思ふ間もなく新驛長の大宮榮轉、宇留野判事さん商賣がえ（水戸で辯護士開業）と云ふ風にどんどん減つてしまつた目下の處では小野村、坪の松、岡部、樫村の四君だけであるが而も尚善戰茨城王國末期の孤壘を守つてゐる四名中樫村署長は近く行はれるであらう警察官の異動で何うやら榮轉免れ難い形勢にあると云ふ

◇

公園尼子亭の一室同縣出身の美妓をして座間を斡旋せしめ置酒歡談縣人同志が水入らずの團欒にゆくまで興じ合つた其の夜を追憶する時に於て茨城縣人たるもの一種悲凉の感懐を禁じ得ぬそうな

（二日）

◇

梅ぼしが腐る、鼠が居なくなる、打ち續く不思議な出來事を考へながら言ひ知れぬ凶變の豫感に襲はれて展轉反側容易に眠りつけられなかつたその夜の櫻井見幸夫人

◇

何となく胸騷ぎがしてならなかつた折柄、何處からともなく咽ぶが如く訴ふるが如く一種凄愴な犬の遠吠へがきこへて來た、あゝ厭な晩だな、と思つて居ると枕頭の時計が午前三時を報じた

◇

それが恰も草野縣議弔辭中の謂はゆる松籟悲しき小名濱潮頭の宿舍夫君賢文學士が溘焉として逝つた去月廿八日早曉の同時刻であつたそうな、夫人が涙の述懐とある

（六日）

◇

遺された六人の子女を引具して足かけ六年住慣た平町を去る櫻井未亡人

◇

送る人送らるゝ人雙つ最底一點の涙なきを

坪十日午前九時一分平驛頭の悲痛なる光景

◇

「我國古來の家族制度に於ける家長は猶樹幹のごとく自餘の家族は猶枝葉の如し幹ゝ枝葉と相依り相助けてよく一樹を成す家長と家族と相愛し相護つてよく一家をなす」

◇

以上は覧文學士が在世中同窓會報に於て多數會員に誨へた一齣である「巨幹亭々枝葉鬱蒼として大虚を蔽ふが如く一家の強く一國の大をなせる、是れ實に我が世界萬邦に絶する所にして」と文は彌々流麗に子女教育家の本領を强調し萬丈の氣を吐いた櫻井校長が前記文中の所謂巨幹亭々たり得ずして忽然夭逝したと云ふことは繰言ではあるが夢の樣な事實だ

（十一日）

◇

磐城高等女學校の櫻井校長が死んだ、ほんとうに夢の樣である

◇

櫻井先生の死に關して信號子は本年一月二十一日の紙上「赤井嶽颪」の欄でこんな事を書いた、

客臘中風邪にやられて以來未だに和服姿で出勤してゐる磐城高等女學校長の櫻井文學士ゟ醫師の勸告で目下禁酒中とするので「この寒さに飲れなくちや凌げませんな」と訊くと「最初はなかつたが少し慣れると何妙な具合で腹の調節がとれでもありませんな」と案外平氣

▲それどころでない最も惡かつた頭の熱は九度から四十度の間を往來し而も滑川磐中校長の葬儀當時とて商業の武川校長、遠藤、橋本の同校兩教諭、磐中の關口教諭佐々木青年學校長矢野第一小學校教員等合計七名のしんがりとして自分も忽々參るのかな、と少なからす悲觀と云ふものをしたそうな何がさて小學校時代この方二十七年振りで醫者にかゝつたと云ふ先生で萬一の事があれば例の古事記研究の博士論文がフイになるところだつたから無理はない

◇

念ふにその済時から人知れす健康を害して居つたのであらう

◇

一月二十一日の午後滑川氏の追兒教育資金募集協議を了へて磐銀の階段を下りながら「少しは良いだらうと思つて謎をかけて見るんだが大森君（主治醫）もよい顔せんし………」と酒に關する冗談を云つたあの時の笑ひ顔や獻酬する時君だのに前だのと云はず先生のよくつかつた「大人」なんて言葉が今もなほ耳に殘つて居り目の前にちらついたりする

◇

泌々無常迅速が觀せられる

—（今月今日）—

△京濱間鐵道開通之を本邦鐵道の最初とす天皇親臨勅語を賜ふ）明治五）△帝都復興の詔勅降下（大正一二）△佛國陸軍兵役を一年に短縮す（同一五）東北（札幌）農科大學開校式擧行（明治四十）△藤原惺窩歿す本邦程朱學の首唱者なり（元和五）△加藤嘉明歿す年六十九、三河の産馬追ひの微賤に身を起し秀吉に擧げられ後會津四十萬石の大諸侯となる（寛永八年）

講談

赤鞘安兵衛

東京 桃川燕二演
村田月光畫

（四十九）

友一が幾らヤキモキしても安兵衛は落ち着き拂つたもので、悠々として再び大手の方へ向ふ—「オイ/\ちらすのも大概にしたら何うだ、大手の方へなど行けは敵の重圍の中へ飛込むやうなものだ」—「然うかれこれ云つてくれるな拙者も中山安兵衛、謂はれなく川上典膳へ亂暴を仕掛けたと取られては名折れとなる、彼れを懲らして改心を勸めた次第を殿のお耳に達して置く必要がある、横丁の居酒屋へ立寄つたのも、其の次第を認めるためだつた、殿へ言上の書付は斯く懐中してゐる、佐々木貴公家の潰れるのも構はんければ是れを取次いでは呉れまいか——」と半紙二三枚に認めたものを懐中から取出して見せる……「イヤ、その樣なものを取次ぐのは迷惑至極だ」……「夫れだから、殿の御前へ屆く工夫をしなければならぬ、是れが引トげの用意なのだ」……「夫れは尤もだ」と云つたが佐々木友一、其の强膽さ加減に呆れて再び止めは致さない安兵衛は——『佐々木さらばぢや」と言葉を棄てゝ大手の面番所へノソリ/\

面番所の足輕……「ソレ來た」……「ワアーッ」と云ふと、バラ/\/\、石を投げた樣に逸足を出して逃げ去つてしまう——「是れは困つた、あいや門番共、久方振りで立戻つた中山安兵衛、殿へ言上すべき筋あり委細はこの一書中に認め置いた、早速これを殿の御手許へ戻くやう取計らつてくれ頼んだぞ」氣樂な人物で人の居ないのに獨り言を言ひ、懐中した一書を取出して面番所の机の上に差置き其の儘踵を返して御城下外れへ出てくる成程友一の言つた如く何れの横丁にも二三十人の足輕共、ガヤ/\としてかたまつて居るが安兵衛の姿を見ると——ソレ來た……と一同後向きになつて見て見ぬ振りをして居る、安兵衛は大手を振つて御城下を出ます、夜前の居酒屋へは態と寄らず其儘新發田を退散して一里ばかり來ると、其處には杉の木立ちの並んだ森がある、辻堂の後ろから現はれたのは佐々木友一とた和喜であつた「中山先刻は失禮した、我等の屋敷へ泊らぬ仔細も判つた、今度は遠慮して呉れる通りの譯だから見送りだけで、別れるが、明年は我等も江戸勤番に當つてゐる幸ひ妹も用のない身體だから同道出府、其の節逢つて盡きぬ話しをしよう、何うか江戸の住所が定まつたならば内々知らしてくれ、待つてゐるぞ」——「ヤア流石は佐々木だ、城中も大分混雜して居る中を、態々見送つて呉れる志し、是れでこそ竹馬の友だ、よし江戸で逢はうお和喜殿にも隨分健固で暮しなさるやう」——「中山樣まことに本意ないお別れでございます、何れ明年江戸にて……」と是れは忽ち涙でありまず、玆に愚圖/\してゐて人目に掛つては、安兵衛は構はなくとも友一た和喜には迷惑が掛る、惜しき袂を分ちて安兵衛は江戸表へ志し、仲仙道追分けの宿に至るまでは格別のた話しもない、手荷物を速尺に背負つて編笠を冠り、追分宿へ入つたのが六ッ過ぎでございます、少し無理な道だつたが最う一丁場と張り込んで遲く到着然るに此の追ひ分けは仲仙道と善光寺街道の分れ道道中何の噂もなかつたが來て見ると、信濃高島の城主諏訪因幡守と、同じく飯田の城主堀筑後守とが、參勤交代の道中にて此處に泊りと云ふことで、小大名ではあるが二組の宿割で、何れの旅籠屋も悉く宿札が建ち座敷の明いた家は一軒もない——「是々、如何な小座敷でもよいが、今晩一夜だけ明かす都合をしてくれないか」——「折角でざいますが此の通りの立込みで…

拈華微笑

◇虫聲唧々たる秋の夜に物故三校長の追悼座談會亡き人を偲んで話は盡きまい

◇平つ子にまた一つ自慢の種、マルトモビル

◇水道工事の人間採用を聞き傳へ洪水の勢ひでよせた求職者に小さい紹介所の取入口

◇毆られたので云つた?、さあこんがらがつて來たぞ

◇目を潰された上に男を潰され憤慨して告訴

芳醇無比
白馬の雪
松本德一吟釀
平電話七五二

廣告

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

平町南町
上田醫院
電話一二九番

電話番號變更廣告
今日から電話番號左の如く變更致しました。

四八八番
平町二丁目
遠藤帽子店

七九番
平町材木町
大鶴屋商店

四七八番
平町六丁目
矢吹石炭店

一九五番
平町五丁目
金光堂時計店

五九一番
平町大工町
多田井笑次郎

五三五番
平町才槌小路
ライト寫眞館

五八八番
常磐線平町五丁目
青物甘藷問屋
高木屋支店

一八八番
大床號
石崎幸一

一八六番
平町田町
日進堂支店

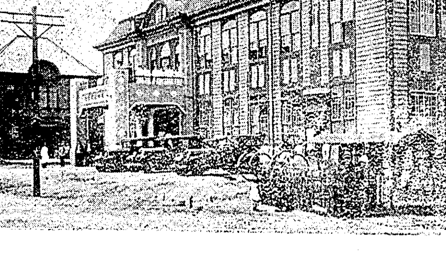
二八五番
平窪村銘酒白馬ノ雪釀造元
松本德一

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切叮寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町五丁目十六番地
須藤まつの

耳鼻咽喉科專門
日本醫大院長醫學士 鈴木正男
齒科口腔外科
日本齒科科長醫學士 高橋正永
◎晝夜診療（日曜 祭日 午後休診）
下谷區入谷町二九一
入谷改正通り東交番前
鈴木醫院

皆様の
昭和タクシーは
此際 御得意様本位に
貸切料金の値下斷行
何卒御用命を
平驛前 電三四三（サシミ）
澤正路

磐城共濟病院案内
本病院は時局に鑑み八月一日より入院料並に往診料左の通り低減致候間御參考迄申上候
入院料…一日（一般 金貳圓也／本會員 金壹圓五拾錢）
往診料…院長及其他の博士に限り（一般 金參圓也／本會員 金貳圓也）（平町內）
尙地方往診料も之れに準じ低減致候間此段申添候也
（各科專門醫擔當）
內科 外科 小兒科 皮膚泌尿科 整形外科 內臟外科 產婦人科 女子泌尿科 耳鼻咽喉科 X光線科 物理學的診療科



院長 醫學博士 難波睦
本院主管 賀澤忠治
◉一、衛生試驗所
◉一、病氣相談所
◉一、救療所
共濟病院內
●救療を申込るゝ方は當相談所へ御話し下さい。
昭和五年九月
磐城共濟會
平町 電話六四一番
⊕看護婦募集

來月中に竣工する 壯麗なトモビル
郵便局の新廳舍と呼應して まさに平町の新風景

將來の大平町に備ふる機宜の施設として同町の少壯實業家柴田德二氏が去る五月中平町の一等地と目さるゝ四丁目角に起工したる三層のビルヂングはその後內外の工事順調に進捗し一見有樂町驛より大東京朝日の社屋を望見するの惑を懷かしむる鐵網セメントのモダンな大建物は昨十一日から店開きをした平郵便局の新廳舍と相呼應してまさに平町の新風景をなしてゐるが愈々來月中竣工平町の文化史上劃期的の光彩を放つ筈である

建物は延坪二百五十坪の廣大なるもので大体平局の三分一强を占め氏在來の書籍店舖をはじめ七軒に分割貸與の計劃であるが一階は各種店舖二階住宅に充て三階には講演會宴會等の集會に用ゆる目的で優に二百人を容るゝものと百五十人を容るゝ合計二個の大廣間と受付其他幹事の溜り室控室等集會に附隨の目的に使用する洋室三間日本室二を有し一般の利用にまかせ尚ほビル內には適當の營業者をして飲食物の供給をなさしめて其間の利便を圖る事にすると

木炭同業組合協議 豫算更正其他

濱三郡木炭同業組合では十九日評議員會を廿日代議員會を開催し五年度組合豫算更正の件組合規程中一部改正の件に關して協議なす由

採用を聞き込んで 押寄せた求職者
一部の生活苦を救ふ 平町の水道工事

平町上水道擴張工事が許可されると同時に今まで職にありつけない失業者の我先と平町職業紹介所に求職申し込みが山の如く緊雜を極めて居りこれが紹介方法等を嚴査中であるが水道部職員並に人夫共に紹介就職せるには種々の事情から一苦勞してゐる殊に職員の紹介には工事實施に當り技手二名、工手二名、專任書記一名、書記補二名計七名のところ約十倍七十名に達して居りその上町長、助役の手許にも町議その他關係者からの推薦者も三十名以上は上つてゐる狀態でその內には大學、專門學校中學校實業學校等の卒業者が多く七名の採用に對し百餘名以上に達しこれら失業者は有力者を依賴して目下猛運動をなしつゝあり一方人夫の如きも失業者全部を採用することは困難の模樣で同地方の失業者採用如何を氣づかひ非常に憂慮してゐる

桝次勝義示談

昨報播槌小路アイス屋大內桝次(四二)が長橋町鮮魚商豬狩勝義を相手とつて平署へ告訴した傷害事件はこの程示談濟みとなつた

炭礦競技の委員協議會 本社內で開催

第三回常磐炭礦聯合陸上競技大會は十一月三日の明治節をトし磐中グラウンドに於て開催するが過般三井炭礦の廢山に伴ふ大會脫退に就て採點の變更短距離競走の選拔豫選の有無等に關し本日午後五時から本社內に於て委員の協議會を開催した

毆られたので云つたと 警察の陳述を飜す
ロツプ切斷事件で 昨日平支部の公判

不動澤五十嵐炭礦ロツプ切斷炭車突落し事件の公判は昨日十一日午後一時から平支部に於て中島判事係三笠檢事の上臨廷したが被告村松は同事件の起つた廿六日夜は部外巡邏の爲大河原、小林、猪俣四人で坑夫佐々木初太郎方で茶呑のみをなし同夜十時頃歸宅就床したが翌廿七日近所の女子供がその事で騷いで居たので初めて知つて驚ろいた樣な始末で自分は教育も無いから監督になる氣は更になく警察では犯行を不定した爲ひどく毆打され耐へられぬので心にもない白狀をしたわけであると、犯行一切を否認し三時半閉廷十六日午前九時から檢事の論告がある筈

鮫川工事の寄附金交渉 縣から日立へ

本縣では地方民多年の要望に鑑み明年度から七ヶ年繼續工費三十五萬圓を以て鮫川疏水の復活を農業水利改良事業によつて行ふことになつたが縣財政多難の折とて目下鮫川に水利權出願中の日立電氣、鮫川水電の兩者いづれかに工事費の半額寄附を求めやうと過般來兩者の妥協を慫慂してゐたが決裂したので縣では日立電力を選び約四千キロに水利權許可と交換の寄附金問題につき十一日同社代表を招致會社側から顧問の元本縣內務部長田邊勝郡氏並に玉川取締役出縣金森內務部長から約十五萬圓の寄附方を慫慂したが日立電力側では七萬五千圓程度なら應ずる旨を回答したが縣との開きがあるので纏まらず今後更に交渉を繼續することとなり、大体縣並に會社の歩みより近く決する模樣である

映 畫 欄

昨年中の活動入場者 二百三十七萬人
全國を通じて十番目 興味あるファン統計

全國を通じて何處の國の人が一番活動常設館に多く入場するかを調査してみたならば、矢張り東京人が一番の映畫ファンである、內務省警保局の調べに依ると昨年一年間主要府縣の映畫常設館入場者統計は東京が約三千五百萬人强と一番多く、次は大阪の二千五百萬人兵庫は少し落ちて八百六十萬人强、愛知縣が八百十萬人强、福岡か約八百萬人、京都が約六百九十五萬人、神奈川が六百五十三萬人、廣島約三百六十八萬人、靜岡が約二百九十二萬人、福島二百三十七萬人、愛媛が約二百十萬人、群馬二百萬人が主なもので一番少いのは熊本の三十六萬人であるが、昨年のみでなく每年殆ど變りなく日本全國を通じて東京に一番映畫ファンが多く居る譯である

加藤氏の傑作 「綠の城」 鈴木勝彦主演

岡田三郎氏の「最後の女性」完成後の帝キネ松本英一監督はキング誌上に連載歡迎を受けた「綠の城」に着手する事になつた原作は現文壇の大家加藤武雄氏で華族の世襲にからまる事件を中心として不羈時代の世相を挿入したものでこれをかつて「君戀し」「春恐朧月」が執筆して効果的描出にその才能を認められた隱れたるシネリオライター尾崎子娥が脚色してゐる主演には「二人の母」以來斯界の至寶と謳れた子役鈴木勝彦に配するに英百合子、松本泰輔の老紳士があり加ふるに監督松本英一と技師二宮義曉のコンビをもつて今秋をかざる映畫となるであらうと期待されてゐる

『ごろつき船』と『野獸群』 「赤城颪」も上演

大阪道頓堀辨天座が帝キネ關西封切場になる事は旣報の通りだが種々取沙汰された來る十五日の開館第一回封切映畫は現代劇「野獸群」と時代劇「ごろつき船」に決定野獸群は中野英治、高津慶子主演になる木村惠吾監督作品ごろつき船は先年大阪每日に約二ヶ年連載された大佛次郎氏の原作で渡邊新太郎監督明石綠郎主演オールスターキャストに依つて完成いづれも帝キネが誇示する今秋の二大特作品であるが右二映畫の他に明石綠郎が國定忠治に扮する血煙「赤城颪」も併せ上演する事に決定した

平町の傳染病成績 昨年より稍減少

平町の隔離病舍へ收容した今年度傳染病患者はチブス二十二、ヂフテリヤ三、赤痢十、猩紅熱二、疫痢七、合計四十三名で內全治チブス十四死亡ヂフテリヤ全治三セキリ全治三死亡猩紅熱一疫痢二死亡五目下左記の如く收容はチブス五セキリ一猩紅熱一計七名で昨年の患者五十一全治三十二死亡十九と比較して稍々良好な成績を示して居る

チブスで鐵道官舍四の十二小田久太郎(七七)杉平二三穴戶イネ(三)セキリ好間北好間堀坂高木アサ(二六)胡摩澤大河原キヨ(五六)四丁目鈴木勇(三)猩紅熱川前村根尻矢內みよである

四倉繭市況

四倉繭市場十一日第十八日目の相場は最高二圓十二錢最低一圓七十八錢平均一圓九十錢掛目二〇總貫數一七四貫七四〇累計二萬九四六貫二九〇

投稿歡迎 喰ひもの

蠶繭の暴落から一時どうなることかと懸念されたの農民の騷ぎも漸くこのごろ穩かになつたと思つたら、今度は不景氣の世相が別な方面に現れた。

◇

何どいつても暑いうちはまだ屋外にも寢られる。場合によつては裸でもゐられるといふので金はなくとも貧乏人には至つて氣樂だが愈々唐もろこしの葉すれに秋風を感じるやうになると心細いものは海の藻屑にすだく蟲ばかりではなくなる。日々の糧をどうして求めやうといふ深刻な生活苦に喘ぐものにとつて朝晩の涼風に秋を知るといふことは實に拷問以上のものだ。

◇

先日の新聞にはある失業者の妻君が子供を連れて歩いたら、その子供が往來に落ちてゐるものを拾つて食べた相である。子供の母はその子のいぢらしい、そしてあさましい、情景を眼のあたり見せつけられて胸が一杯になり遂に子供を道連れに親子心中を企てたとある。

◇

ジャンバルジャンが犯罪を侵したのも喰ひものからだ漱石に命をとられたのはつぐみだ、喰ひたいものゝためには生命をまで投げ出して省みないのだ、喰ひものはよい意味にも惡い意味にも人間に取つて仇だ、最近頻々として起るコソ泥も見ると何れも喰ひものに來てゐる。ツドン、白米甚だしきは鰻頭をすら盜むものがある、直接くひものに來るのは彼等が如何に腹が空いてゐるかを物語るものではないか。

◇

如何なる義人でも空腹を抱へながら座して死を待つことは出來ないらしい死して妻子や親を待つものに於てをやである。

(燕趙悲歌子)

情婦との仲を割かれ 凄ご文句で脅迫
京染店員檢擧さる

平町南町飲食店新橋屋本店方に去る六日一家を根絶やしにするから覺悟をしろといふ意味の脅迫狀が舞ひ込んだので平署に屆け出た同署では犯人嚴探の結果今回山形縣西置賜郡小國本村生れ飯坂澄雄(二九)の所爲であることを探知し同人を逮捕したが、澄雄が脅迫狀を出したのは本年二月中鄉里の妻子を棄てゝ情婦である齋藤すえ(二二)と驅け落をなしたのちすえは福島市本町藤金旅館の女中となり、澄雄は平町南町村松京染店の店員となつてゐたが、賣かけ代金を橫領して解雇となり女のもとをたづねた所女は平町南町の前記新橋屋の酌婦となつてゐることを知りて來たが抱主が警戒してすえに逢はせず內鄉村宮にかくしてしまつたので憤慨したあまり脅迫をなしたもので橫領脅迫として引續き嚴重取調べを受けてゐる

平署扱拾得物

最近の拾得物は△巡査小平森英雄五丁目で廿五錢入蟇口一ヶ(八日)△新川町野本三次自宅前で二圓三十錢入蟇口一ヶ△飯野村北白土小野とデ子は金側腕時計一ヶ△湯本向田突戶吉三郎は自宅前で金側腕時計一ケ△小名濱町橫町比佐ミツ五十錢入蟇口一ケ(一日)△草野村下神谷富岡澤一金側腕時計四丁目で一ヶ拾得平署へ屆出た

入社

營業部員 綠川松太郎

橋本磐中校長

長崎縣の視學官から磐中校長に轉じた橋本文壽氏は來十七日著任鼠坂に居を定むる由

◇埼玉縣でも盆踊には櫓叩きをやるといつて來た親切者がある、それが五丈櫓といつて相撲櫓のようなステキに高いやぐらを組んで其上で櫓をたゝく、誰だツ、炬燵やぐらより高いかなんて◇其櫓も油の空樽が音が好いといふんで盆前には需用激增、價格暴騰と來るんだから恐ろしい、それが五丈やぐらの上で冴えた腕で叩くと秋風爽かな夜、五里四方も聞へるといふのだから村々の選手が腕を限りに打ち出す櫓の音が、實る稻田の穗波をわたつて遠く近く交錯するのは、野趣掬すべきものなそうな◇郡山から來た竹廼家の小壽美、玉川の喜代壽などの郡山盆踊も、節柄受けてるが、ハゲ頭を見ると叩きたくなるといふから禿たゝきもうまそうだが、物騷な慾共だ

明日の吉凶

舊曆七月廿一日　新曆九月十三日

▲一白の人 和親を保ち當業專念に勵むべし世話事は凶▲二黑の人 虛榮に煽られず利は少くも實收に安んぜよ▲三碧の人 人の誘ひに乘らぬ樣に尻を落付け努力せよ▲四綠の人 冷靜に事を處せば十分才能を現はし得べし▲五黃の人 一心不亂障碍に撓まず刻苦すれば志望達す▲六白の人 平和の中に目立たずとも自然增收あるべし▲七赤の人 自家の業務は無上の樂天地と信じ勵むべし▲八白の人 到る所敬遠せらるゝ趣あり內に居るが無事▲九紫の人 競爭的に出づる時は思はぬ失敗を招くべし

目を潰された男 正式に告訴提起
曖昧に葬るが癪さ 十一日平署へ出頭

既報平町仲間町五六大關佐吉(三五)が七日夜踊り場所で同町銀治町山崎義德(三七)のために毆られた上右眼を失明した事件に關し大關から屢々義德に掛け合つたが義德は言を左右に托し下手人の誰なるかを曖昧裡に葬り去らんとしてゐるので十一日平署へ告訴した

老婆殺し檢證

錦村の老婆殺し事件は平支部の豫審に附され審理をすゝめられてゐるが、平署當局でも事件を極めて重大視してゐる模樣で十一日には中谷豫審判事武田檢事は錦村に出張して再實地檢證を行つた

正直な少女

四倉町字新町海產物業鈴木松次長女尋常二年生鈴木サキ(一〇)は去十一日夜如來寺境內で十錢入がま口を拾得早速四倉署に屆出たるが同人は去る七月中にも海水浴場に

平町人事

△出生

平町立町五大工職山野邊菊藏長女しめ子

平町禰宜町十九植田町字植田金畑十七鐵道員村上七之助長男輝夫

平町禰宜町八四伊達郡柳川町陳內九指物職齋藤和吉長女和子

平町禰宜町六八愛知縣幡豆郡東屋敷四平町禰宜町六八電氣機關手筒井柚三郎三女かね子

ハムよりうまい
鹽豚販賣
田町 三二三屋

專門眼科醫師擔任
無料檢眼
無料檢眼券 御利用下さい

信用アリ正確味萬點ノ時計
御客様本位ノ眼鏡部
常盤屋時計店 電三三九

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅鐵 (久) 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番一三九番 振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は(久)の生命なり

一圓十錢 フランス マルソー會社元詰
マルソー、ブランク マルソー、ルージ 生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二三番 西村屋藥舖 にはなし

借家人を望む
市內目貫の場所にて
樂器(日本樂器・蓄音器・洋樂器・其他)の營業を開始せんとする營業者に店舖を御貸し致し度し
(姓名在社)

洋食の丸昇 の の (昌)のホール
代表的レストラント
平南町本店 電三九
平四丁目第一支店
四倉町 第二支店 電六八